

第5回福知山市行政改革推進委員会 議事録

日時: 令和3年11月24日(水)

午後2時30分から

場所: 市民交流プラザふくちやま アトリエ

■ 出席者

【委員(敬称略)】

深尾 昌峰(委員長)、菊田 学美(副委員長)、井上 拓、浦尾 たか子、細見 祐介、村尾 慎哉
※深尾委員長、井上委員、浦尾委員、村尾委員はオンライン参加

【市】

熊谷特別参与、市長公室長、財務部長、経営戦略課長、財政課長、財政課長補佐、職員課長、
情報推進課長、事務局

■ 報告事項

(1) (仮称) 第7次行政改革大綱について

深尾委員長

本日の議事は、前回に引き続き「仮称第7次福知山市行政改革大綱」について。本件については、前回までも様々な見地から意見をいただいた。それを今回、答申案として取りまとめをしていただいているので、事務局から説明をいただき、皆さんと議論をしたいと思っている。では、資料の説明を事務局からよろしくお願ひしたい。

【資料】大綱答申(案) 事務局より説明

深尾委員長

前回、かなり本質的な議論をさせていただいた。それを整理し、文字に落としていただいている。まだ少し表現が伝わらないとか、こういうふうに変更した方がいいのではというようなことがあれば、ぜひ意見をお願ひしたい。基本的には、答申として取りまとめしていくという作業は本日最後の機会になる。質問等もあればお願ひをしたい。

細見委員

私の方から情報提供したい。9ページでの「価値共創によるパートナーシップの推進」のところ。福知山公立大学のことも書かれているが、大学の今の課題・目標の一つが、学生ベンチャーを増やすこと。今、公立大学は0件である。地域に貢献したい、学生ベンチャーを推進したいという気持ちがあり、大学としても地域と連携をし、学生ベンチャーを促進できるような取組をしていきたいという話はある。そういった話もこの項目で何か織り込められたらと思う。

深尾委員長

こういった大学との連携という中で、政策として進めていくような形になればよいというふうにする。

その他いかがか。

井上委員

前回の議論をかなり網羅的に反映いただいている。

1点、これまでもコメントさせていただいた点で、改めて意見させていただきたい。

それは、今回バックオフィスの話も触れていただいていたが、提案として明確に「ペーパーレス」というキーワードを主な取組の方向の中なのか、もしくはその上段の中に入れ込んでいただきたい。項目としては、取組の「②DX推進とICT徹底活用」のところ。やはりDXと一言で言っても、とらえ方が様々になってしまい、特に市役所職員からしても「DXで業務を変えと言っても何を变えるのか」と、イメージがなかなか湧きづらいところがあるかと思う。そこで、「ペーパーレスを福知山市として目指していく」というメッセージが盛り込めると、かなりわかりやすいメッセージになるのではと考える。住民の方とのタッチポイントで変えるというよりは、バックオフィスの中の紙をなくし、減らしていくことを段階的にやっていこうということをおの中に盛り込んでいただけると良い。

背景としてもう1点補足。ペーパーレスというキーワードに関しては、総務省で取りまとめをされている、スマート自治体実現のためのロードマップでも、AIとかRPAを活用するためには、電子化やペーパーレス、データ形式の標準化が基礎になるということもうたわれているので、国の目指している地方行政の方向性ともかなり一致する取組になるのではと思う。

事務局

前回、電子決裁の取組について話をさせていただいた。RPAだけではなく、しっかりと業務フローを見直し、要はデータで残せるものを紙に残さないという指摘もいただいているので、どういう形で落とし込めるかも含めて、見直したい。

菊田委員

何点かあり、8ページの「(1)行革大綱の標題(タイトル)について」。この資料では「(仮称)第7次福知山市行政改革大綱に関する方針」となっているが、最終的にはこの表記が変わってくるのか。

事務局

この表記にしたのは、諮問の中では「(仮称)第7次福知山市行政改革大綱について」という表記となっているので、それに対する答申であるからである。実際に行革大綱についてはこの答申を受け、改めて市役所内部で検討をし、その時にこれを踏まえて「第7次行政改革大綱」というタイトルになるのか、検討させていただく。大綱としては違う名前になる可能性もあるかと思う。

菊田委員

1点目。タイトルは、9ページに書いてある「時代の変化を機敏に捉えた、生産性の高い行政経営の確立」なのか。「第7次」と冠することなく新たな標題を設定すべきであると書いてあるので、新しい標題はどこに書いてあるのか。

2点目。資料11ページ「④持続可能で質の高い行財政経営の確立」の中の【主な取組の方向】で、「新たな財政健全化指針の策定」とある。これがイコールになっているのかを伺いたい。

3点目。10ページの「③福知山市職員としての資質の向上」の【主な取組の方向】の3点目で、「部課横断的な事業推進チームの形成および活用」とあり、これは「④持続可能で質の高い行財政経営の確立」の中に入る内容ではとイメージしたが、どうか。

4点目。その④にある、「EBPM」の意味を教えてください。

事務局

1点目。タイトルについては、前回から変わり、パワーポイントのタイトルも「第7次」ではなく「行革大綱2022」という表現に変えている。今までの「6次」の延長線上で次に取り組むのではなく、新たなステージで行革に取り組む、ということをおイメージしている。この答申の文面の中にタイトル名は書いてないが、そういったことも踏まえて検討すべきではないかと考えている。

2点目。③の【主な取組の方向】内の「新たな財政健全化指針」は別途添付している資料とイコ

ールである。

3点目。④の【主な取組の方向】の3つ目、「部課横断的な事業推進チームの形成および活用」について、職員の資質なのか④のマネジメントかという疑問。確かに前回も部長マネジメント、管理監督職のマネジメント、どちらかということで議論があったと思う。整理をしたいと思う。

深尾委員長

皆さんはどう思うか。部課横断的な事業推進チームの形成および活用のところは④のほうがそぐうのではという意見だが、どちらにも関わってくると思う。特段、強い指摘がなければ、先ほどの質問を受けて、事務局のほうで整理してもらうかたちでいいかと思う。

熊谷特別参与

今の質問のところはその通りだと思っている。④に入れると庁内の組織化になってしまう。自分から手を上げ、意欲を持ってチャレンジするようなことを、この方向感の中で意識しているのかというふうと思うが、④に入れるとそういう点の色が少し薄まってしまって、今でもよくある庁内の連携協議のようなかたちになってしまうのではないかというところが、逆に心配をするところである。ここは意見も踏まえて、関係各課の意見も聞きながら、もう一度、事務局で検討してもらえればいいかと思う。ここに入る意図としては、自分から手を挙げる、意欲をもってやる、多少失敗しても大目に見る、ということ。それがもう少し表現できると、ねらいが通じる気がした。

深尾委員長

組織というよりも職員の方に軸を置いた、自発性とか自制的な手上げ方式で、意欲を引き出していきたいというニュアンスが伝わるような表現が入るといいと思う。今のこの表現では、どちらかという部長マネジメントと同列の、組織的な問題としてとらえられるような書き方になっているので、職員に寄せた書き方・文言にすればよいと思う。

熊谷特別参与

「EBPM」だが、「エビデンス (Evidence) ・ ベースト (based) ・ ポリシー (policy) ・ メイキング (making)」の頭文字を取ってEBPMである。今、国の各省庁とも積極的に、これを基本原則として政策立案をする形で取組を進めている。直訳すると、証拠や根拠に基づいた政策形成・政策立案という意味。この場合の証拠とか根拠というのは、データを示すということではなく、これをやるならこれがこれに繋がる、こういう効果が出る、こういう現象が起きるということが、しっかり論証されているものを根拠としてとらえるということが、大きなポイント。根拠あるデータを基にして考えろとよく言われるが、決してそれだけではなく、行政の様々な事業やいろんな行為というのが、その端々に至るまで論証されているかということ、そうではないものがほとんど。その辺りのいろんな方法論などを、今、国の方でデータベースとして蓄積をしながら、実際に情報提供をして政策立案を進めるということが謳われている。それを本市もしっかり受け止めてやるべきという意味で記載をしている。

深尾委員長

RPAなどは、注釈を書いているので、EBPMも書いてもいいかもしれない。

浦尾委員

私の方から2点、意見を述べたい。

1点目は先ほどもあった今回の行革大綱のタイトルのことであるが、8ページの冒頭に書いてあるように、今までの大綱の流れの延長線上にあるのではない。むしろ、この2022年から2026年、この5年間にしっかり取り組むべき内容であるということで、この期間をはっきり書き、そういう意図で取り組む行革大綱とするのがいいのではないかと思う。

もう1点は、11ページ「④持続可能で質の高い行財政経営の確立」と、9ページ「①価値共創によるパートナーシップの推進」。この2つにまたがる内容かと思うが、今、福知山市では民間とのPPPであるとかPFI事業を推進していることもあり、今後もそういったところにも力を入れて推進すべき。財政的にも民間・市民といかに価値を共創していくかということになると思うので、どこかにそういった言葉も入ってもよいのではと思う。

深尾委員長

2点目の提案は、事務局で引き取り、入れ込みたいと思う。

村尾委員

先ほども出た10ページ「③職員の資質の向上」の【主な取組の方向】のところ、市民マインドを持つような職員の育成というのが一番重要なポイントになるのではと思う。7ページの問題点は、良い文書を書かれているなど思ったのだが、そこを引用したような形で、例えば「市民の立場で課題を自分事として受けとめ、改善に取り組む人材の育成」とか、そういうものをその取り組むべき方向の一つに取り込んでもらったらいいのではないかと、というのが1点。

2点目だが、今も出た9ページのパートナーシップの推進のところ、やはり一番強力なパートナーシップは企業関係。しかし、福知山市への企業誘致の話はここでは触れてないのだが、そういう方向性は持ってないのかなという疑問がある。企業誘致も積極的に推進する方向であれば、記載した方がよい。

文言の体裁になるが、2ページの一番下の行に、2040年と2015年の比較があるが、時系列で2015年と、2040年の順番で書いた方がわかりやすいのではないかと。もう1点は、同じく3ページにある市内の人口分布の二極化の話には、二つの論点がかかれていと思う。一つは人口減少と高齢化の話、もう一つは担い手不足の話であり、この文章の記載の仕方として、人口減少と高齢化は災害発生時のことを受けているのかな、と思う。担い手不足による耕作放棄地の増加が懸念される、というふうに分けて書いた方がわかりやすいのでは、と思うので検討をお願いしたい。

深尾委員長

1点目の文章を取り込むことと、今、最後の文書の構造のところは、事務局の方でチェックしてもらおうとして、2点目の企業の部分であるが、企業誘致をどういうふうに位置づけるか。ここはいかがか。

事務局

現在行革大綱と合わせて、市の総合計画に位置する「まちづくり構想福知山」を策定している。先ほどの企業誘致については、そちらで盛り込みたい。

井上委員

盛り込むかどうかも含めて質問をする。前回は軽く触れたが、スマートシティ福知山構想の推進との接続をこの行革の中でどう位置づけるか。もしくは、基本的にまだ現段階では、DX人材という部分だけでも一旦は触れないような形にあえてしているのか。

熊谷特別参与

DXの方は、少しレンジの長い話かと思ひ、この中につけている認識である。スマートシティ福知山の見解であるとか、ここに具体的に書いてあるICTの活用については、これはもう待たなしの目先、この1年、2年、3年くらいの中でやりきってしまうなくてはならないという目標感で捉えている。そのあたりの認識で間違っていないかどうか、逆にお尋ねをしたいところである。スマートシティ福知山も、これは事業の方で進めているところもあるので、そのあたりをこの中に具体的に盛り込める項目があるかどうかについては、後ほど情報推進課長からお答えしたいと

思う。

井上委員

僭越ながら、コメントさせていただくと、一番端的な接点としては、いわゆる福知山市役所の職員がITリテラシーを高めていくという中で、単純に座学として学ぶのではなくて、おそらくそういったスマートシティ福知山の構想そのものも何かしらの形で、各原課の方々は接点を持って取り組んでいくとか、自分たちの部署がスマートシティの中でどう位置付けられるのだろうかというのを、日々の仕事の中で意識をするみたいなのは、まさに待ったなしの施策かつそのDXの一番入口の部分。各職員が意識をしなければいけないところとして、この行革の中でも位置付けられ、キーワードを入れてちゃんと意識を付けられると良いのかなと思う。このDX推進で、なぜ我々がITリテラシーを高めなければいけないかが、単純に中長期として、この市役所・行政の諸事業を支えるというだけではなく、もう直近に見えている出口というか、やらなければいけないことにも必要なことだということで、このDXを取り組む意義・目的としては、直近スマートシティ福知山の構想を進めるという部分があるということを入れられるといいのかな、と思う。おそらく今現在では、スマートシティ福知山の取組は、実際、職員の方が入り、情報推進課で検討していると思うが、その検討の広がりや、ぜひ全庁的な活動にしていけると、まさにすごく良い活動になるのでは。

情報推進課長

今回、行革大綱でICTなりDXという言葉が大きく取り上げられている関係もあり、情報推進課としては、言い方は悪いが助かると思っている。個々の施策については、もちろんすり合わせをしながら、関連性を持った計画を作成する。

井上委員

こんなことを表現として肉付けしてはどうか、というのをコメントする。

まずは、先ほどの繰り返しになるが、DX推進の部分で今回10ページに「全庁的かつ横断的なDX推進体制の整備」という形で書いているが、ここの横断という部分がどこまで横断するのかという部分を何かしら明確にできるといいかなと感じた。例えば、「公共領域横断」みたいな形まで明記してしまうと、例えば防災とか医療とか福祉みたいな形まで含められるようになるので、そういった表現も一案としてはあるので、この横断というのが、全庁横断はもちろんだと思うが、ある種市役所を越えてどこまでなのかというところを明確にできるといいのかなと、一つ感じたところである。同じパートでもう1点あるのが、少し上のところになるが、「地域の現場に足を運び、市民等の話を直接聞き、課題解決や政策立案など」と書いているが、ここも肉付けするとしたら、例えば課題解決だけでなく、その課題発見みたいな部分も明記すると、さらに職員自身の資質の向上、意識の向上みたいな部分も出てくるのかなというので、課題発見についてもここに盛り込めるとよい。

もう一つは、これはどこにというところはないが、関連するところでいうと7ページ、ICTのツールが期待するレベルまで活用が進んでいないというところに関して、今後の全庁的な意識としてどこかに入れられるといいかなと思うのは、今すでに持っている使える仕組を使い倒しましょうとか、ICTのツールも創意工夫して応用していきましょうという方向性がどこかに盛り込めると、これも非常に情報活用としては重要なところかと考える。導入整備はできているが使っていないところに対しては、端的に「使っていきましょう」というメッセージが、全庁的にはすごく有効なのではと思うので、そういったエッセンスも盛り込めると良い。

深尾委員長

これも検討させていただくということで引き取らせていただければと思う。

今日、ご指摘いただいた事項も含めて、最終、文言の調整や今のような付け加えも含め、事務局と正副委員長の方で調整をさせていただくということで、委員長一任をいただければと思っている。

次回が市長への答申というタイミングになる。正副委員長と事務局で今日出た意見の部分をどう反映させるか確認をさせていただき、その後委員の皆様にお目通しをいただく形で進めさせていただければと思っている。

そういった意味で、委員長一任という形で、最終的に文言の修正をお任せいただけるかどうか確認させていただければと思うが、よろしいか？（→ はい）

それでは、今いただいた答申の手続きは、年内に市長に答申を出すという形で進めていきたいと思う。詳細が決まったら、こちらの方も日程も含めて、委員の皆様にもお知らせをさせていただければと思っている。

それでは、本日の委員会は終了とする。

以上

※公表時には〇〇委員（長）は、委員と、市の関係者は、市と表記します。